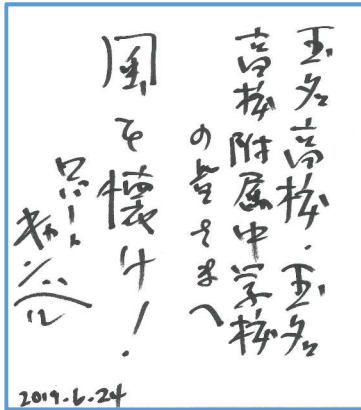




玉高附中通信 WAKAGOMARU NO.44

6/24(月)玉名高校・玉名高校附属中学校では、キャリア講演会を行いました。今年は、東京大学名誉教授のロバート・キャンベル氏の講演でした。演題は、「生きる手ごたえを、人はどう掴み取ってきたか ―日本文学の「今」をさかのぼって「これから」を考えるために―」です。正直、中学生には難しいかなと思いましたが、生徒の皆さんはしっかり聴いていました。感想を紹介します。



本は、今の私たちと、関係性、接点があるのだなと思った。昔は、本は大切なもので、手あとは1カ所だけというほどのものだから、これから、たくさんの本を読み昔と今の接点を見つきたい。

(3年 門川さん)

私は、今回の講演会で、日本の古い読みものはあまりおもしろくないという先入観が、壊されました。ロバートさんの話の中で、いくつか古典が出てきたけれど、どの話も結構おもしろかったです。最後に、「自分からはなれて、自分を見る」と言われたことを少しずつ意識して生活していきたいです。(3年 大山さん)

私は、昔の小説を読んでいきたいと思いました。そして、別の角度から見た自分、つまり、相対化された自分を見ることによって、「生きる手ごたえ」を感じていきたいです。

(3年 田畑くん)

最近、「過去を振り返らない、前だけを向いていこう」とする考え方をよく耳にしますが、過去の人の知恵を生かし、SNS等の新しいツールと融合させて、より良い未来をつくるのが大切かなと思いました。逆境の中でチャンスをつかみ、自分らしい人生を探したいです。(3年 米井さん)



講演を通して私が感じたことは、キャンベルさんは色々な人に考えに目を向けているということです。また、日本の文学はキャンベルさんにとっては昔を知るというより、未来を発展させる存在だということを知り、視野を広げたり見方を変えると、そのものの及ぼす影響が大きく違ってくるのかなと感じました。(3年 宗像さん)

私は、ロバート・キャンベルさんの話を聞いて、アメリカ出身なのに、大学で日本の文学について学んで、現在、日本で活躍されているのがすごいと思いました。私も、他の国に興味を持ちつつ、日本文化を大切にしたいです。(3年 富田さん)

キャンベルさんが着目された、日本の文化の“待つ”という点について、面白い視点だなと思った。日本の昔からの“待つ”という文化を大切に、来年の東京オリンピックをおもてなしの心で待ちたいです。(3年 矢山さん)

玉名高校・玉名高校附属中学校のキャリア講演会は、毎年、著名な先生方にご講演いただいています。未来の入り口に立ち、近い将来の自分自身の姿を見つめる貴重な機会となっています。

2019.6.27 副校長 山部

「玉高附中通信WAKAGOMARU」は、玉名高校・玉名高校附属中学校ホームページに掲載しています。

URL : <http://sh.higo.ed.jp/tamana/>